

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室・施設部
大項目	9 教育研究等環境（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	9.0.1 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。【担当部局：学長室】	
要素	学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化 校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画	
小項目	9.0.2 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。	
要素	校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成【担当部局：学長室】 校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保【担当部局：施設部】	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 全キャンパスの整備充実計画を策定する委員会を設置し、統合的かつ継続的な整備を行う。	→各キャンパスの整備・充実計画の進捗状況	B
2. 情報機器の持込利用が可能スペースを増やし、ユビキタスな環境を拡大する。	→情報機器が利用できる建物の増減	C
3. 個人研究室の整備・充実を図り、研究の活性化を支援する。	→建物別の個人研究室平均面積	C
4. 学生・大学院学生・教員間の学習・研究、交流・親睦・発信の機能を持つ学生共同学習スペースを確保する。	→キャンパス別の学生共同学習スペースの設置数、総面積数、設備の充実度(物品販売などサービスの種類)	C
5. 環境側面とその影響を常に把握し、各キャンパスの省資源・省エネを行う。	→キャンパス別の電力消費量、光熱水費、CO ₂ 発生値	C
6. バリアフリーな施設・設備を充実する。	→障がい者用トイレ、点字ブロック、教室内ループなどの設置数	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

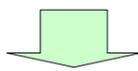
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.1	(方針) キャンパス総合開発検討委員会が出された方針に則って、現在教育・研究施設の整備が順次進められている。今後は新基本構想、新中期計画における修正点等を整理しながら、全学的に教育・研究環境を充実していく必要がある。 (現状説明) 新中期計画において、西宮上ヶ原キャンパスにおいては社会学部本館、第一教授研究館の建て替えが計画され、現在その具体化が順調に進められている。また、神戸三田キャンパスにおける学生増に対応する形でのコモンズ計画が進められている。 現在は新基本構想、新中期計画が全体計画の構想・進捗管理を行っており、概ね順調に推進されている。
☆ 小項目9.0.2	(現状説明) 国際学部の開設により、西宮上ヶ原キャンパスG号館が増築された。 また、現在計画が進められている西宮上ヶ原キャンパス北西部開発は順調に進んでおり、2010年冬の完成を目指して第一教授研究館は旧テニスコート跡地に建設が進められている。また、新社会学部本館は、現在の第一教授研究館跡地も含んだ形で建替え計画が進められており、最近の学生の求めに応じた形で、全学の学生に向けた共同学習スペースの計画が現在実施設計の段階まで進んでいる。共同学習スペースには、キャンパス北側では初めての食事を提供するスペースも計画されており、完成すれば、学生の生活環境が飛躍的に向上する。 神戸三田キャンパスにおいては、現在KGコモンズの計画が進められており、本年4月に完成した第3厚生棟とともに、最近まで続いた神戸三田キャンパスにおける学生数増に対応する形で学生の生活環境の改善が図られている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目9.0.1	
★小項目9.0.2	
その他	



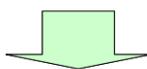
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目9.0.1	
★小項目9.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目9.0.1	キャンパス総合開発検討委員会の後続組織は、現在新基本構想、新中期計画の関係組織が担っており、今後のキャンパスグランドデザインについて検討する組織が必要となった場合の組織形態について検討しておく必要がある。
★小項目9.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目9.0.1	今後の教育・研究施設の整備の必要性について、どのような組織が必要なのか、そもそも建設計画を検討する組織が必要な時代なのかの検証から始める必要がある。
★小項目9.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○様々な教育研究環境が、計画に従って改善されています。更なる充実が期待されます。

【学内委員】

○大学院独自の施設・設備に関する現状や課題はないのでしょうか。

○大学院として、教育研究環境について目標、課題はないのでしょうか。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

○整備に関する基本方針を定める体制が明確であることが期待されます。

○情報機器利用の環境改善ならびに個人研究室の整備・充実が望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

9.0.0.S18	校地、校舎、講義室・演習室等の面積
9.0.0.S19	備品の管理状況
9.0.0.S20	大学院生一人あたりの共同研究室の面積
9.0.0.S21	教室の種別数と使用率
9.0.0.S22	PC設置台数
9.0.0.S23	研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
9.0.0.S24	シャトルバスの利用状況

<個別的な指標>

--	--